

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891500021
法人名	医療法人 中野クリニック
事業所名	グループ・ホーム アンダンテ
所在地	東温市志津川1578-1
自己評価作成日	平成28年9月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・地域貢献の一環として事業所が地域拠点となるべく職員が認知症介護の知識または技術を深めるために施設内での研修に力を入れ、相談時などに適切に援助ができるような体制作りを行っている。</p> <p>・災害等の緊急時への対応としての救急救命の講習、年2回の消防、避難訓練を行い利用者様の命を守るための方法を全職員が学び、実践できるよう努めている。又、地域消防団や地域役員の方にも参加していただき地域で認知症高齢者を守るうと取り組んでいる。</p> <p>・アンダンテ農園での収穫などの地域の子供達との交流や、地域住民を招待しての夏祭りで、出店や花火観賞等で楽しみながら信頼関係を強めている。またこういった交流の中で当施設・利用者様と認知症高齢者について理解を深めていただけるよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>法人全体で、地域連携や地域貢献に積極的に取り組んでいる。法人主催の「認知症カフェ」を近くの系列事業所で2ヶ月に1回開催しており、管理者等も参加して相談相手になっている。事業所は、地域の方の趣味の発表の場・集いの場として提供しており、毎月のようにある楽器の演奏会や生け花、絵画教室が催されている。幼稚園や保育所と交流があり、行事ごとには招待し合っている。秋祭りには、神輿や獅子舞の休憩所になっている。坊ちゃん劇場の観劇は、毎年恒例になっている。</p> <p>今年5月には、運営推進会議と併せて地域包括支援センターの協力のもと、近隣の方にも案内して認知症サポーター養成講座を開催した。</p> <p>重度の利用者について、本人や家族と相談して、南予の故郷訪問を支援した事例がある。リクライニング車イスを使用し、家族の協力を得て、職員も付き添い支援した。利用者は、自宅近辺を案内してくれる等していたいへん喜ばれた。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループ・ホーム アンダンテ

(ユニット名) 東ユニット

記入者(管理者)

氏名 和田 裕介

評価完了日 平成 28 年 9 月 15 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設内4カ所の見やすい場所に理念を掲示し、管理者より職員へ意義や目的を説明し共通理解のもと理念の実現に向けて日々積極的に実践に取り組んでいる。当施設内でも自己評価を行い、振り返り実践につなげている。	
			(外部評価) 事業所開設時に当時の職員が話し合い「優しく、笑顔のある生活となるよう支援します」等、3項目の理念をつくり、法人理念の「幸せをお届けします」とともに額に入れて玄関や各ユニットに掲示している。法人代表者は、毎年4月の職員会議時に理念について話している。又、管理者は、職員会議時等で理念にふれながら話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事への参加や地域の商店での買い物等、地域資源の活用や地域の方々との交流を行っている。また、地域ボランティアも積極的に受け入れており定期的な交流に繋がっている。夏祭りには、毎年、家族様や地域の方を招待し楽しんでいただいている。理事長・理事が地域住民であることから、地域とのネットワーク作りを積極的に行い、交流を深めている。	
			(外部評価) 法人全体で、地域連携や地域貢献に積極的に取り組んでいる。法人主催の「認知症カフェ」を近くの系列事業所で2ヶ月に1回開催しており、管理者等も参加して相談相手になっている。事業所は、地域の方の趣味の発表の場・集いの場として提供しており、毎月のようにある楽器の演奏会や生け花、絵画教室が催されている。幼稚園や保育所と交流があり、行事ごとには招待し合っている。秋祭りには、神輿や獅子舞の休憩所になっている。坊ちゃん劇場の観劇は、毎年恒例になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営者が認知症のサポート医であるため、地域の研修会の講師として指導したり、地域住民の要望に応じてアドバイスをしたり、運営推進会議や家族会などで認知症について、お話しすることで地域住民に対して認知症の理解を深めていただいている。又、認知症カフェ等地域への啓発に努めており、認知症や介護の公的な相談所として地域住民に事業所を開けている。昨年度より行政の認知症高齢者等見守りネットワーク協力機関として登録している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者様の生活や健康状況、ホーム内の行事やグループホームとしての運営状況、外部評価の結果を報告している。又、会毎にテーマを掲げており、時には講師を招いたりしながら家族様や利用者様、市福祉関係者等多様な運営推進委員との意見交換を行い、地域貢献やサービスの質の向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、奇数月の第3木曜日と決めて開催している。民生委員等地域から2～3名、家族は1～5名の参加があり、利用者の状況やプロジェクターを使用して活動等を報告し、毎回テーマに沿って報告を行い、意見交換を行っている。「認知症ケアについて」等、勉強会も行っている。</p>	<p>現在、家族の参加が限定的になっているが、一人でも多くの家族が参加できるよう、取り組みに工夫してほしい。さらに、目標達成計画の内容や取り組み状況を報告して、メンバーにモニター役になってもらってはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域包括支援センター訪問、運営推進会議や地域における介護ネット、地域密着型サービス施設情報交換会、市の研修等に積極的に参加し情報交換を行ったり、事業所を認知症養成講座の会場にし、地域包括支援センターとの協力、又は指導・助言を実践化に生かしサービスの質の向上に繋げるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議で、市社協や地域包括支援センターの担当者から、会議テーマに沿って意見やアドバイスがある。今年5月には、運営推進会議と併せてセンターの協力のもと、認知症サポーター養成講座を開催した。市の「徘徊SOSネットワーク事業」に協力している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束廃止についてのマニュアル指針に沿って勉強会や研修会を行い、知識を深め職員全体が身体拘束について正しく理解し、ウイング会議や職員会等で一人一人の利用者様について身体拘束をしていないか検討しあっている。見守りと所在確認を十分に行うよう努め、いつでも出られるよう施錠はしていない。</p> <p>(外部評価) 年1回は、身体拘束をテーマに内部研修を行い、自己チェックを行っている。ベッドからの立ち上がり時等に、転倒の危険がある方には、身体の動きに反応して音が鳴るセンサーを設置して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会を通して、職員全体が虐待について正しい理解に努めている。認知症高齢者の心理的な理解のもと、常に利用者様の立場になって考えることをチームで取り組んでおり、カンファレンス等で、利用者様の日常生活の様子を職員全員で共有している。又、更衣や入浴時に身体に傷等がないかを注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について管理者・職員が勉強する機会を設けており、制度利用されていない家族様に対して、今後の必要性も含めて協議または助言、支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、利用に際してのサービス提供の内容・権利・義務等を、契約書や重要事項説明書に基づき説明し、理解していただくよう具体的にお話した後、納得して頂き契約をしている。改定等については、連絡・説明し、理解を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様とは日常のコミュニケーションやアセスメントにより、思いや願いの実現に努めている。定期的に行事等と合わせて家族会を開催し、多くの家族様が参加されている。会の中で家族様だけで話していただく時間もあり、多様な意見や要望を頂戴して運営に反映させている。運営推進会議では評価結果やアンケート結果も公表し運営について忌憚のない意見をいただき、運営改善に役立てている。苦情相談窓口・意見箱等により、家族様の要望や意見の収集をしたり、何でも話せるような関係になれるよう積極的にお話をして信頼していただけるよう努めている。 (外部評価) 年2回、行事後に行う家族会や家族アンケート等を用いて家族が意見を表す機会を作っており、現在、「担当者を換えなないでほしい」等の要望が出ている。又、以前に家族から「トイレが臭う」と指摘があったことを機に、その後から掃除や消臭剤を工夫して環境整備に取り組んでいる。運営推進会議で家族から「季節を感じる生活ができています」と感想があった。	事業所に訪れる機会が少なめの家族からも、サービスについての意見や要望を聞けるように、利用者の状況や事業所の取り組み等をより多く知ってもらえるよう、情報発信に工夫をしてみてもどうか。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ウイング会、職員会、業務改善委員会、運営会での意見や提案を運営に反映している。また、日ごろから職員との会話やミーティングを通して意見を十分に聴くよう心がけており、気づきやアイデアを気軽に言える体制作りに努めている。	
			(外部評価) ケアカンファレンスや職員会等の内容は、会議記録や申し送りノート等で全員が確認、共有する仕組みを作っている。法人代表者や管理者と面談する機会を作っている。外部研修参加時には、法人から費用面でも援助がある。介護資格を取得した職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は個々に個別目標を作成し、定期的な自己評価や目標設定を行うことでステップアップを図っている。代表者は職員の自己評価と面談により、職員一人一人の状況を把握し、条件等の整備に努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間20回程度、勉強会や施設内研修を行っており、専門的な介護職員の知識と技術の向上に努めている。外部研修の情報は、内容を職員に伝え職員一人一人の力量に合った研修会参加を進めている。また、資格の取得を奨励している。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 東温市介護ネットや地域密着型サービス施設情報交換会、市の研修等に参加し、市内の施設との連携・交流を深め、勉強会や意見交換会を行なっている。また相互訪問をし互いの意見を交換することで質の向上に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にご本人や家族様と事前面談を行ったり、本人が既に関わっている施設等から情報を得ることに努め、ご本人の希望や要望を聞き取り、安心して生活出来るように配慮している。アセスメントシートの活用で、職員全員が事前に情報を共有し入所後の個別性のあるケアに繋げている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の相談及び契約説明時に、家族様や利用者様の生活歴・現況等の正確な情報把握に努めるとともに、不安なこと等、細部についても話し合い、施設において可能な事を説明し要望に沿えられるよう、少しでも不安を解消し家族様が十分理解・納得されるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人や家族様より相談内容を聞きながら思いを汲み取り、介護支援専門員やその他の専門職員とともに話し合いを持ち検討し、利用者様を中心にした、ご本人が安心して穏やかな生活となるよう、短期間で協議見直しを行い、適切なサービス提供に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) グループホームの理念の現実を目指し、利用者様を中核に捉え、一人一人に応じた生きがいのある生活となるよう支援し、楽しみのある感情や行動が継続できるよう生活を共有している。ご本人から意見を聞くことで、暮らしを共にする者同士関係性と信頼を築けるよう努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の来訪時や日頃の電話連絡にて、ご本人の状況を報告し日常生活の様子を知って頂いたり、要望等についても相談している。また、職員と共に支援していただけるよう、介護計画に参画して頂いている。家族会や施設行事等には参加を呼びかけ、家族様との意見交換や、信頼を深める機会としている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様や親族・友人の訪問が多く、その際落ち着いて話せるよう環境作りにも配慮している。また、ドライブや買い物等で、ご本人が馴染んできた地域資源や季節の自然に触れられるよう出掛けしている。行事等にもお誘いし今までの関係性が崩れないよう努めている。そして新しい馴染みの関係が出来るよう人や場所との関係作りにも努めている。 (外部評価) 重度の利用者について、本人や家族と相談して、南予の故郷訪問を支援した事例がある。リクライニング車イスを使用し、家族の協力を得て、職員も付き添い支援した。利用者は、自宅近辺を案内してくれる等してたいへん喜ばれた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 耳が聞こえにくい方や意志疎通の難しい方もおられるので、職員が仲立ちとなって会話やレクリエーション等を通し孤立することがないように、関わり合いが持てるよう努めている。又、思いを共感できるような関係作りにも配慮しており、クラブ活動や家事手伝い等、グループ活動への参加を勧め、共に楽しい時間を過ごしていただき関係を深められるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも、事業所への訪問や連絡の頂けるような関係作りを努めている。病気で退所された方に対しても面会したり、退所された方の家族様も、他の利用者様や職員を訪問されたり、施設行事にお呼びすることもある。退所されてもいつでも相談や情報提供を行うことを伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々、会話や表情生活全般を通して、思いや暮らし方の希望を汲み取り、何を求めておられるのか正しく知ることによって支援の個別化に繋げている。特に困難な方には、家族様との話し合いの中から、昔の慣習や生活歴等を聞き取り、職員間で対応を検討し、本人に寄り添ったサービス提供を工夫している。また、ターミナルについても本人、家族様も含めお話しをして、希望を視野にいれたサービス提供をしている。 (外部評価) 入居時には、利用者の生活歴や生活習慣等を家族に書いてもらっている。「会いたい人」や「大切なもの」等も書き込むようになっている。又、入居後には、食事、排泄、歩行、入浴等の項目に沿って職員が「気づいたこと、気を付けていること」についての情報を整理してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、利用者様・家族様より生活歴や現状などの情報を収集、又、来所時に新たな情報を頂いたり、利用したことのある他施設の情報から利用者様が馴染みの環境で安心した生活が継続できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝の申し送り等で、その日の心身状態に合わせて対応している。現状理解や有する力を把握して、1日の活動で残存機能が有効に活用できるよう申し送りやウイング会等で適切な支援の方法を話し合い、実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者様、家族様の意向を日頃の生活や面会時等から少しでも汲み取るよう努め、定期的にあセスメントとモニタリングを行い介護計画の見直しと作成を行っている。又、ケアプラン実施記録をモニタリングに活用しており、サービス担当者会議や随時行うケアカンファレンス等にて、職員全員で話し合い、医療の介入が必要な場合には主治医の指導・助言を受けて、現状にあった介護計画となるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 「本人の希望」を大切に介護計画の作成に努めている。作成前には、家族の希望を確認している。計画は、ケアマネジャーが原案をつくり、職員で話し合っ作成しており、毎日、実施状況についてのコメントを書き共有している。月1回、個々の担当者が本人に確認しながらモニタリングを行い、3～6ヶ月に1回行う評価・見直しにつなげている。「家に帰りたい」という本人の希望について家族と相談して、毎月、2泊3日の外泊を計画に採り入れているような事例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子はケアプランに重点を置いた形式で介護日誌や個別記録に記録している。又、ケース記録に残すと共に必要に応じ様々なチェック表を個別に作成し介護計画に反映させたり、申し送りノートを活用しホーム内での細かい情報を職員が共有し、個別支援を意識して実践に反映している。何か気になることなどがあればミーティング等機会を持つよう努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ニーズはできる限り受け入れ、個々に応じたサービス提供に努めており、施設としてできることは柔軟に対応し、利用者様に安心して豊かな生活が送れるよう配慮している。利用者様や家族様の状況に応じて、通院や外出、送迎等の必要な支援をしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域ボランティアの方が積極的に訪問して下さっている。協力により踊りや演奏会等の訪問や、地域の保育所等子供達の訪問もある。パステル画のボランティアは毎月来られ、利用者様の持てる力を発揮できるよう様々な支援をして下さっている。また、地域の施設や行事へ出掛けることにより、住み慣れた地域で豊かな生活を継続できるよう支援している。新しい地域資源の発掘も、家族様や民生委員などの地域の方々から意見をいただいている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 運営者が病院長であり、事業所に隣接しているので緊急時等も含め適切な医療を受けられるようオンコール体制ができています。受診については家族様と話し合い、希望により専門医療機関を紹介したり、入所前からのかかりつけ医を希望される時は、受診出来るよう支援している。受診時は必要に応じて職員が付添いや送迎をし、家族が同行することもある。</p> <p>(外部評価) 現在、全員の利用者が母体医療機関をかかりつけ医にしており、個々に月2回往診がある。専門医の受診は、家族や職員が付き添っている。協力歯科医が6ヶ月に1回、全員の口腔内チェックをしてくれている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者様の健康・服薬状態等、身体の状態について看護師に相談・報告し、医師の指示にて受診や処置等の適切な看護が受けられるよう支援している。また、ターミナルの際も看護計画書を作成してもらいそれに沿ってターミナルケアへ繋げている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時に情報を提供し、入院後職員がお見舞いに行く際には、必要に応じて入院先の医師との面談により情報把握に努めている。家族様と退院後の生活が不安にならないよう、受け入れ態勢や退院後の生活について相談している。入院先と院長が治療について情報交換が密にできているので、経過・対応等分かり安心できる。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期については指針を作成しており、入居契約時に家族に説明を行なっている。その事態が発生した時には家族との話し合いを適宜に持っている。職員会や研修会で院長より方針やターミナルケアについて指導を受け、職員共通理解のもと、本人・家族様が安心して生活いただけるよう医師・看護師と連携して取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 内部研修で「看取り支援」について学んでいる。今年7月に看取り支援を行った事例では、かかりつけ医や看護師の意見、家族の希望等を話し合っ介護計画を作成し、申し送り時にも方針を確認、共有して取り組んだ。現在、終末期を過ごす利用者については、外の景色が見えるようにベッドを窓に沿って配置して、出窓には本人の好きな花を飾る等して、本人が心地よく過ごせる空間づくりに気配りをしていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを理解し、迅速に対応がとれるよう研修を実施している。また、救急救命の講習を職員すべてが受けられるよう、法人全体で毎年東温消防署から講習を受け実践出来るよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、利用者様と共に火災や地震を想定した避難誘導訓練、消火訓練を行っている。地震からなどの発生経緯や時間、場所等についてはその都度変更して総合訓練、ユニット訓練を実施して利用者様の命を守るよう努めている。地域消防団・地域住民にも案内をし、訓練へ参加していただいている。その際、消防署員に立会って実施しており、適切なアドバイスを頂いている。また、運営推進会議にて地域に出来ることを提案し、災害時には地域へ避難場所として当施設、駐車場を開放し、向かいのクリニックは周辺地域の緊急対応場所として開放したりと、相互体制整備に努めている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得て、火事や地震等、想定を替えて利用者も参加し、避難訓練を行っている。地域の自主防災組織の方や近隣の方、家族の参加もある。又、運営推進会議時には、避難訓練時の報告を行い、災害時には事業所が避難場所として提供できることを伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 施設内のコンプライアンスルール等からも啓発をし、日常的に利用者様一人一人の人権を尊重し、利用者様は人生の先輩であり敬うことを共通認識しプライバシーや誇りを重視し環境や言葉かけなど細やかなケアを心掛けている。	
			(外部評価) 調査訪問日の昼食時、職員は、笑顔で、ていねいな言葉で利用者に話しかけていた。廊下には、絵の得意な方の作品を飾り、俳句を詠む方は職員がイラストを添えて「アンダンテだより」で作品紹介をしている。又、園児交流時に訪問のお礼の言葉を述べる方、運動会の選手宣誓、新聞取りやゴミ出し等、生活の中での役割、出番作りを支援している。入浴後に本人の好きなジュースを準備したり、数種類の飲物から選べるような支援も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何でも言えるよう親和的・家庭的環境作りに努めている。利用者様の思いや願いを知ることにも努めている。言葉で表出が難しい方には筆談や行動で把握を行うなど工夫している。寄り添った関わりを持ち本人が必要な場面で自己決定できるよう支援し、その後も生き生きと生活出来るよう見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様の思いや願いに耳を傾け、心身状態やその日の体調などに合わせて一人一人のペースに合わせて希望に添えるよう支援している。一日をトータルで捉えその人らしい生活ができたか気をつけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に訪問理美容サービスを利用して、利用者様の希望に応じたカットや毛染め等をしている。着替えの際には本人に洋服の選択をして頂いたり、季節やその人に合ったものを選んで頂いている。又、身だしなみを意識できるような声かけを行い、清潔で心地良い身だしなみとなるよう支援している。自分で出来ない方などについては離床後等には特に注意し整容するよう心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々にあった調理の下ごしらえや買い物・下膳・片付け等を一緒に行っている。メニューには旬の食材を取り入れ、食への意欲を引き出せるよう努めている。また行事やお祝いごとの時には、特別献立を提供し喜んでいただけるよう工夫している。おはぎの作り方や野菜の切り方など馴染みのあるものを昔の力を発揮し職員へ教えて頂いたり、利用者様が楽しく調理準備から食までの過程を行えるよう支援している。 (外部評価) 調理は、専門職員1名を配置しており、他職員が手伝いながら行っている。オープンキッチンで食事ができる様子がよく見える。朝食に週1回パン食を選べる日を設けている。昼・夕食のメニューをホワイトボードに書いている。職員は、利用者の中に入り、介助等を行いながら同じものを食べていた。茶碗や湯飲み、箸は個々のものを使用している。調査訪問時には、昼食に使用する玉ねぎの皮むきをする利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 月1回の体重測定を行い、毎日、食事量をチェックするとともに、水分摂取に配慮や介助を要する方は、不足しないよう水分摂取量に気を付け、カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足にならないよう知識や意識を持って支援している。またアレルギーなども含め本人の嗜好などにあったものを提供できるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声掛けと、ご自分で出来ない方は介助にて口腔ケアを実施している。就寝前の口腔ケアは義歯を外し洗浄剤を利用して洗浄し、口腔内の状態を把握している。また舌のケアも行い感染症や臭いにも注意している。嘱託歯科医に口腔ケアについて指導や助言を頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や、声かけをし排泄の自立に向けた支援を行い、できるだけパットやオムツを外した生活ができるよう職員が記録、検討している。出来るだけ残存機能を活用していただき、ご自分でできない所は手伝わさせていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>トイレで用を足すことや布パンツ使用を基本と考えており、個々に紙パンツやパッド使用の必要性や適切性について見直ししながら支援している。自分でパッドを準備してトイレで始末をする方用に、トイレの中には汚物入れを置いている。男性用便器の横に「もう一歩前へ」の貼紙があった。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排便を記録し、利用者様の排泄パターンを確認している。食事に繊維質のものを取り入れたり、乳製品や水分の摂取等、一人一人に合った対応を行っている。また、散歩や体操、腹部のマッサージを行う等、トイレでの姿勢に至るまで個々に応じて対応している。他にも便秘が重度化しないよう、看護師・主治医に相談し指示を仰いで対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>その日の体調等に合わせ、一人一人の状況に応じた方法により、安全で安心した入浴ができるよう努めている。入浴が快適で楽しい時間となるよう支援し、入浴後には、希望に応じた保湿液等を使用したり飲み物を提供したりしている。また、ゆず湯など季節に応じた入浴方法を提供し楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>浴室の壁面に檜を使用しており、香りを楽しみながら入浴できる。個々に週2~3回の入浴を基本にしているが、本人の希望に沿って毎日支援するケースもある。浴槽のまたぎが難しい方は、2人介助で浴槽の中で温まれるように支援している。入居時のアセスメントに「一番風呂が好き」と記入がある方には、一番風呂で支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様が安眠の状態に導くように日中は適度な運動やレクリエーション等を心がけたり、心地よく休息できるよう温度湿度調整を行い夜間安眠できる生活リズムを整えるよう支援している。また、音や光等その方に合った安心できる環境を提供できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬表を個々にファイルし、職員が薬の効能や副作用などを把握し理解している。薬は個々に合わせて、飲みやすくするために一包化したり顆粒状にしたりし、職員が手渡し又は口腔内に服薬するように支援し誤薬がないよう確認している。内服薬が変更になった場合や臨時薬が処方された場合は、特に症状の変化の確認に努め、申し送りノートなどでの情報共有に努め、細かく看護師や主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で趣味や得意分野を把握し、一人一人に合った活動や参加ができる環境作りをしている。掃除・調理・洗濯等の手伝い等の家事を中心に、役割を持って生活して頂いている。また、行きたいところに行けるよう散歩やドライブ等を行い、気分転換を図ったり楽しみのある場面作りを提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に利用者様の気分や体調を伺いながら、できるだけ行きたいところに行けるよう散歩やドライブ等の支援を行っている。また、地域の祭や行事への参加、買い物や観劇等外出の機会を増やすよう努めている。また、自宅に戻り馴染みの方々との交流を図れるよう、家族様と協力し支援している。 (外部評価) 気候の良い頃は、事業所近辺を散歩したり、玄関前のベンチで過ごす時間を作っている。買い物の折に、利用者も一緒に出かけたり、個々の希望に沿っておやつ等を買いにかけられるよう支援している。菜の花やサツキ、コスモス、キク等、季節の花見物に出かけたり、市の文化祭に作品を出展して見物に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来る方については所持していただき、必要に応じて外出時に使って頂いている。利用者様の要望に合わせて買い物をしてもらい、本人が支払いまたは立て替えをしているが所持されている方は少ない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持たれていない方も希望があれば家族様などへ電話できるよう支援している。また、手紙のやり取りの際には、投函の依頼があればお受けしたり手伝ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者が集まる食堂や玄関には、季節に応じた生花や観葉植物、手作りの飾り物等を配置している。施設横の畑では季節に合わせた野菜を栽培して収穫、調理し楽しまれている。共用の空間は採光・空調・換気等、工夫された設計であり、灯りやエアコンの調整をこまめに行ったりして心地良い環境を整えている。トイレや各居室には案内の表札をつけたりして不快や混乱のないよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 玄関前に色とりどりの季節の花が咲くプランターを配置しており、ベンチを数台並べている。敷地内には、桜の木もある。食堂は、天井が高く、ガラス張りである。食卓テーブルには、中庭で摘んだラベンダー等を活かしていた。調査訪問日の昼食後には窓を開けて換気をしていた。ユニットの間にあるレクリエーションルームは、防火構造になっており、火災時は一時避難場所になる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 外にはベンチが置いてあり、リビングにはソファを置いて、憩いの場としてスペースを広く確保しており、思い思いに過ごせるような共用空間となっている。常に所在を確認し、安心して気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるような環境作りを心掛けている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた家具、冷蔵庫や仏壇、家族の写真や飾り物など利用者様思い思いの馴染みの品を持ち込まれ、使いやすように配置なども考え、心地よく安心して過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には、本人の写真と名前を入れた表札を個々の目線に合わせた高さに掛けている。腰板と出窓の飾り棚の木の造りが落ち着いた雰囲気になっている。イベント日にしるしを付けた職員手作りのカレンダーを各部屋にかけていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人一人が安心して安全に生活できるよう設計されているが、居室やトイレ、お風呂を間違わないように、高さにも配慮し表札を付けわかりやすくしている。また、残存能力が発揮しやすいように手すり等の設備を整えている。場所などの迷い等があった場合はその都度、職員が対応しており、利用者様個々の能力に応じた生活ができるよう、物の配置に配慮するなど環境整備にも努めている。</p>	